

平成六年 文部大臣年頭の所感

文部大臣 赤松良子

◆◆ 特集 ◆◆ 家庭の教育機能を考える
●国際家族年を迎えて

- ◆巻頭言……10 新しい家庭教育の基本は ・小此木啓吾
- ◆座談会……12 子供の成長と家庭・家族
・(出席者)伊藤育子／久保裕之／清水國明／牧野カツコ／(司会)大野 曜
- ◆レポート……24 イギリスの家族と父親たち ・門脇厚司
28 子供と家族一日米比較 ・宮城正枝
- ◆エッセイ……32 理想の親より生の親 ・吉永みち子
- ◆事例紹介①…34 家庭教育ふれあい推進事業『ちびっこ広場』 ・富山県高岡市立西部公民館
事例紹介②…38 国際家族年への取組 ・国際家政学会・日本家政学会
事例紹介③…42 少子化時代の家庭教育をめぐって ・国立婦人教育会館
- ◆解説……46 家庭教育の振興施策の概要 ・生涯学習局婦人教育課
- ◆資料……50 I 「国際家族年」について ・生涯学習局婦人教育課
51 II 図説 変容する家族と子供 ・小林千枝子
53 やさしい教育用語の解説

1 知の宝庫—博物館
・財団法人松浦史料博物館(長崎県)

4 まつり風土記
・水海の田楽・能舞(福井県)

表2 名作シリーズ・富嶽図

表3 文化財紹介・竹原市竹原地区の町並み

54 人・この道・山本 肇

55 教育・文化と地域づくり②・愛媛県上浦町

58 焦点一文教施策

69 刊行物紹介

70 都道府県発—教育・学術・文化ニュース
・長野県 ・高知県

72 こんにちはにっぽん・インバル・ポルフハイム

74 科学はいま・ミクロの世界で活躍するロボットって
あるの?—驚異のマイクロマシーン—

76 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド
・国立日高少年自然の家

78 海外教育ニュース

80 ふるさとのうた・草津節

82 私の本棚から・蜂須賀養悦

83 鑑賞席・バーンズ・コレクション展

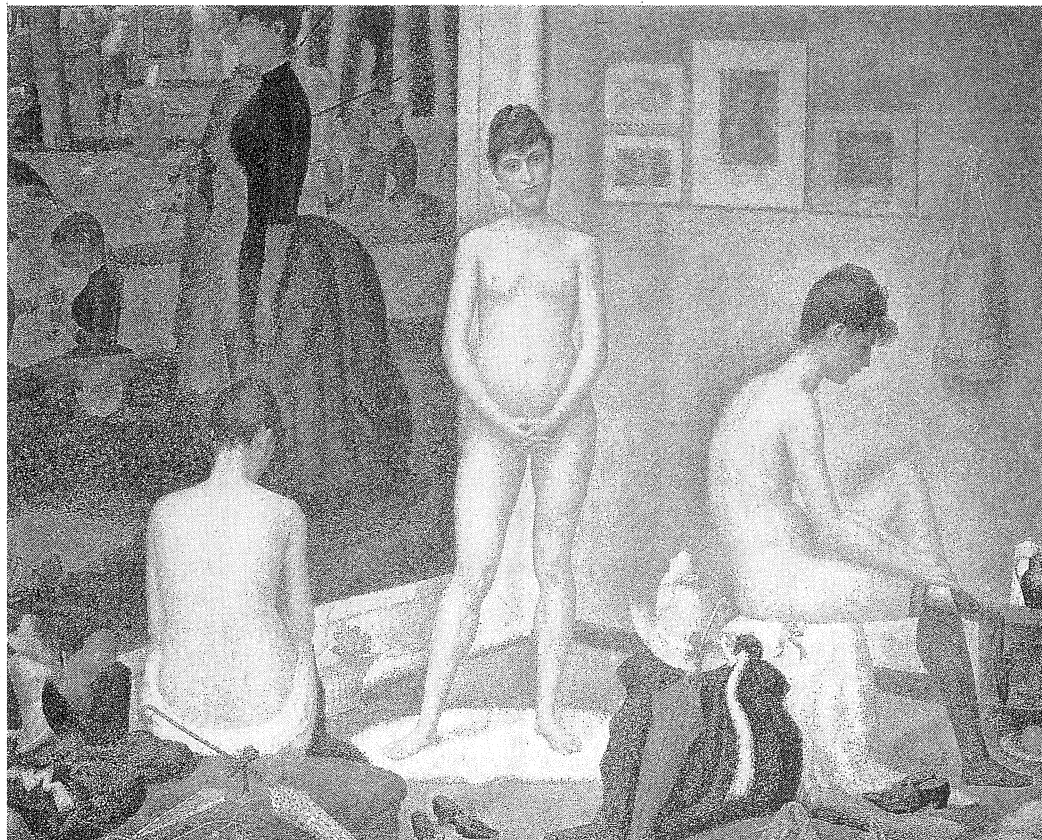
84 編集後記

鑑賞席

国立西洋美術館

バーンズ・コレクション展

- 会場 国立西洋美術館（東京都台東区上野公園7番7号）
☎ 03 (3828) 5131
- 会期 平成6年1月22日（土）から4月3日（日）
- 開館時間 午前9時30分から午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 休館日 毎週月曜日（ただし、3月21日は開館し、22日を休館日）
- 交通 JR上野駅下車（公園口出口）徒歩2分



ジョルジュ・スーラ
「ポーズする女たち」 1886-1888年
油彩・キャンバス 200×248cm
© 1993 The Barnes Foundation

ア

アメリカのフィラデルフィア郊外、メリオンにあるバーンズ財団は、創設者アルバート・C・バーンズ氏（一八七二—一九五二）が収集したフランス近代絵画を中心とする見事な美術作品のコレクションを管理している。これまで、このコレクションは、バーンズ氏の遺言によって、貸出しはおろか、画集や複製の作製まで禁止されていた。このたび、ワシントンのナショナル・ギャラリー、パリのオルセー美術館に次いで、国立西洋美術館で催される本展覧会は、まさに、この「バーンズ・コレクション」が世界で初めて一般の美術愛好家の前に全貌を現すという意味で、歴史的な催しとなる。

本展を構成する八〇点の作品は、いずれもコレクションを代表するにふさわしく、また、どの一点をとっても画家の代表作に数えられるような、粒揃いの名作である。中でもルノワールの輝くような色彩で描かれた肖像画や裸婦像の数々、堅固な構築性を見せるセザンヌの静物画や風景画、名高い「カード遊びをする人々」や「大水浴」などは、圧倒的な迫力をもつて観る者に迫ってくる。また、夭逝した大画家スーラの数少ない大作のひとつ「ポーズする女たち」や、マティスの最高傑作のひとつ「生きる喜び」とそれに続く豊饒な作品群も、本展の見どころと言つてよい。さらに、ゴッガン、ファン・ゴッホ、アンリ・ルソーやピカソ、モディリアーニといった一九世紀末から二〇世紀前半の美術史を飾る巨匠たちの作品も、極めて充実した内容を持ち、この分野においては、現在望みうる最も質の高い特別展と呼んでも過言ではない。

（主任研究官 高橋明也）

特集

リフレッシュ 教育の推進

●巻頭言
大学改革に期待する 平岩外四

●リフレッシュ教育推進協議会

●論文

ニューメディアとリフレッシュ教育 清水康敬

リフレッシュ教育と高等専門学校 春山志郎

●特別レポート

亀岡 雄

欧米先進諸国におけるリフレッシュ教育

●エッセイ

片岡もとい

●リフレッシュ教育体験記

特別記事

教育上の例外措置

—特定分野の個性を伸ばす教育の推進—

人・この道

司馬遼太郎

教育・文化と地域づくり

愛知県新城市教育委員会

都道府県発

教育・学術・文化ニュース

和歌山県・熊本県・滋賀県

編集後記

▽新年明けましておめでとうござ
います。本年もよろしく願ひい
たします。

今月一月号は、今年が国連で定
められた国際家族年であること、
また近年の週休二日制の普及や勤
務時間の短縮、さらに平成四年度
からの学校週五日制導入等により
家族の教育機能が見直されている
状況を受け、特集のテーマを「家
庭の教育機能を考える—国際家族
年を迎えて—」としております。

▽座談会に御出席いただいたタレ
ントの清水國明さんの話題にもみ
られるように、いま子を持つ世の
多くの父親たちが自然体験やアウ
トドアスポーツなどを通じ、子供
たちと積極的に触れ合う機会を持
とうとしているように感じられま
す。

編集幹事も実践していると自負

している一人ですが、いかんせん
仕事とかかわりから、母親と子
供との触れ合う時間に比べどうし
ても少なくなってしまう。

そこで少ない時間で子供と有効
に接するための一つの方法として
子供が放つ様々ななぞなどに効果
的に答えてやることにしています。
▽本誌「文部時報」の内容には、
親御さんや先生から子供たちに紹
介できるものも多く持っていますと
考えております。

例えば、「科学はいま」、「知の宝
庫—博物館」、「ぼくたち、わた
したちのウィークエンド」、「ふるさ
とのうた」等であります。
どうか今年も本誌を様々なかた
ちで効果的に御活用いただきます
ようよろしくお願いいたします。

(A・S)

投稿歓迎

『読者からのたより』欄への投稿を歓迎します。本誌を読んでの御
感想、御意見等をどしどしお寄せください。

●投稿規定

①一件につき四〇〇字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号
を明記(誌上匿名可) ③掲載分には薄謝進呈

※文章を一部手直しさせていただくことがあります。

●送り先

〒100 東京都千代田区霞が関三—二—二

文部省大臣官房政策課 「文部時報」編集部

MESC 61 月刊

文部時報 1月号

第1405号

●著作権所有——文部省◎

●発行所——株式会社 ぎょうせい

本社 〒104 東京都中央区銀座7丁目4番12号

(営業所) 〒162 東京都新宿区西五軒町4—2

電話 03—3268—2141(代表) 振替口座 東京9—161番

●印刷所——株式会社行政学会印刷所

平成6年1月10日印刷

平成6年1月10日発行

定価550円(本体534円)(〒61円)

年間購読料6,600円

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。

・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書
店にてお願いします。

●本誌の掲載文のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。

Printed in Japan 1994 ISSN 0916-9830